

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 7 日現在

機関番号：41201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370258

研究課題名(和文)折口信夫旧蔵資料の調査とその評価を通じた同時代文学の資料学的研究

研究課題名(英文)Study of the document study of the same period literature through Shinobu Orikuchi-related document analysis and the evaluation

研究代表者

松本 博明(Matsumoto, Hiroaki)

岩手県立大学盛岡短期大学部・その他部局等・教授

研究者番号：20310146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：緊急課題になっている折口信夫のみ整理・未解読資料を解読分析することにより、その全体像を把握し、さらに個別の資料の評価分析を行い、それに基づいて、折口信夫と同じ時代に生きた文学者の作品に関して資料学的研究を推進した。
その成果は、日本近代文学研究において現在推進されて多くの成果が出ている作品周辺資料の掘り起こしによる新たな読みへの展開、草稿研究による折口信夫作品の生成論的研究につなげることが可能となり、日本近代文学研究に新たな視座を加えた。また、古代文学研究においても、新出資料に基づいた新たな受容研究を進めた。

研究成果の概要(英文)：I grasped the perspective by only Shinobu Orikuchi who became the urgent problem decoding rearranging, non-decoding document, and analyzing it and analyzed the evaluation of the individual document and, based on it, promoted a study of the document study about the work of the live literary person in the times same as Shinobu Orikuchi.
Of the around work document that the result is promoted in a modern literature study in Japan now, and much result appears could connect it with the development to a new reading to depend, the study of the generation idea of the Shinobu Orikuchi work by the draft study to dig it up, and added new point of view to Japan modern literature study. In addition, in the ancient literature study, I pushed forward a new reception study based on a new appearance document

研究分野：日本近代文学

キーワード：折口信夫 資料研究 生成論 同時代文学 データベース構築

1. 研究開始当初の背景

國學院大學が所蔵する折口信夫関係資料（自筆原稿を含めた原稿資料、折口信夫受取書簡資料、手帖・小型ノートなどの手控え資料、年譜関連資料）は、まだその多くは整理・解読をなされないまま、手つかずの状態にある。

昨今、近代文学研究においては、作家の周辺資料を丹念に収集し、作品の読みを再度検討する研究や、作品の生成過程を子細に分析して、作品そのものを多角的にとらえる草稿研究が盛んになり、成果を生み出している。そうした中、大正年間から昭和 28 年まで、研究だけではなく、同時代文学にも深い影響力と発言力を持っていた折口信夫の書簡資料、周辺資料が整理分類され、分析されること、そして研究資料として多くの研究者に活用されることは極めて重要なことである。

さらにそれが整理解読分析されることは、折口信夫が宗教学、民俗学、古典文学にも深い造詣と研究業績を持っていたことを考えると、こうした分野に極めて貴重な情報を提供することになる。

2. 研究の目的

従前折口信夫（釈道空）研究は多くの研究の積み重ねがあるが、「折口学」を標榜した思想研究、作家研究が主で、作品研究においてもほとんどが全集本文を対象とした研究に終始し、草稿、初出誌テキストなどの多様なテキスト、周辺資料に着目し、本文が生成される過程を分析する本文研究にほとんど目が向けられてこなかった。折口信夫旧蔵資料の解読、分析、評価から同時代文学を見通すという研究は、多様で豊富な資料が残されていることもあって、それを新しい視座から可能にする。旧蔵資料の解読と分析、評価そのものも、近代文学研究の新たな展開に資するデータを蓄積することを目的とする。

本研究によって明らかにされる事実と成果は、近代文学研究はもとより古典を含む日本文学全体、宗教学、芸能学、民俗学といっ

た周辺諸学問に新たな事実と情報をもたらすことになり、それを基盤にした新しい知見の創造と展開が期待される。と同時に、折口信夫研究においても、会素読、評価された草稿資料によって、草稿研究の新たな地平が開けることになる。

3. 研究の方法

1. で述べたように折口信夫旧蔵資料は、（ ）自筆原稿を含めた原稿資料、（ ）折口信夫受取書簡資料、（ ）手帖・小型ノートなどの手控え資料、（ ）年譜関連資料、（ ）諸コレクション、（ ）折口文庫（旧蔵図書・雑誌）に分類される。

これらのうち、特に重要で、喫緊の整理・解読・分析・評価が求められているのは（ ）～（ ）までの資料である。この資料に関して次のような計画・方法で調査整理分析を行っていく。

（平成 26 年度）

（1）折口旧蔵資料について従前の整理確認による全体像把握。

（2）現状の整理状況を再度確認したのちに、不完全部分の整理と把握および情報の確認補填を継続し、まずは資料群の全体的な把握を行う。それをもとにして、研究会を開催し、今後の資料調査、分析の対象、方向性の手順を定める。

（3）それに基づいて個別資料の整理、分析に着手し、資料分類を行いながら、個別の資料群の解読、分析を行う。

（4）自筆原稿資料（ ）の外形的情報を整理して、データベースの骨格を完成させる。また、受取書簡資料（ ）および手帖・小型ノートなどの手控え資料群（ ）の全体像把握を行い、こうした情報を個別データベースに入れ込むとともに、個別資料の評価を行う。加えて周辺資料群（ ）の個別調査・分析・評価を行う。

上記の過程でそれぞれの分野における新たな知見を見出すとともに、未公開資料を仕

分けする。これらの知見および情報は整理して、学会並びに研究会などの機会を活用して公開発表する。

(平成 27 年以降)

自筆原稿資料()、受取書簡資料()の解読を進め、その内容を翻刻しながら、その資料のレベルを特定、仕分けする。またこうした情報をデータベースに入れ込み、データベースを完成して公開する。これらの知見・情報を折口信夫資料研究に活用、その成果を発表する。

周辺資料の調査を継続し、個別資料の位置づけを行う。それら資料の同時代文学研究に活用する可能性を検討し、発表する。

古典分野における旧蔵資料の価値を発見し、その具体的な研究方法を立案、実施し、その成果を発表する。

上記調査の過程で、必要に応じて研究打ち合わせ、研究会をおこなって、新たに見出された知見、データを共有するとともに、適宜以降の方針を修正する。

4. 研究成果

【平成 26 年度】

折口信夫旧蔵資料の整理・調査・分析について、代表者および各分担者の現状認識の確認と今後の方針について協議するために第 1 回研究会議を開催(平雄正 26 年 9 月 16 日: 岩手県立大学アイーナキャンパス) 研究代表者・分担者が岩手県と東京都とに分住して居ることを考慮して、調査において同一日程での行動ができない場合については、各自で調査を進めることを確認。その後、代表者が國學院大學折口博士記念古代研究所代表者と面談して、今回の調査の概要を説明した。

現物調査の日程が確定するまでは、研究代表者(松本博明)が保存している複写でもって、受取書簡、自筆原稿等の自筆資料について当該年度の目標である全体の外形把握および、原資料の確認、データベースの構築方法の設計、個別資料の評価を推進していくこ

とを決定した。

代表者の松本博明によって、折口旧蔵資料について従前の整理確認による全体像把握がほぼ完了。現状の整理状況を再度確認したのちに、不完全部分の整理と把握および情報の確認補填を継続。それに基づいて個別資料の整理、分析に着手し、資料分類を行いながら、個別の資料群の解読、分析が行われた。その結果、自筆原稿資料の外形的情報を整理して、データベースの骨格を完成。また、受取書簡資料および手帖・小型ノートなどの手控え資料群の全体像把握を行い、こうした情報を個別データベースに入れ込むとともに、個別資料の評価を行った。加えて周辺資料群の個別調査・分析・評価を行い、外形的把握が完了。

分担者の庄司達也が受取書簡の整理要項を作成、それに基づいて庄司、城崎によって複写資料を用いての受取書簡の整理確認が進められた。折口信夫受取書簡の全体像把握、公開を目指し、斯界に情報を提供する重要な一歩となった。

また、松本博明と須藤宏明は、自筆原稿および関連資料の外形的把握調査を進め、加えて同資料のデータベースの骨格を構築した。その過程において資料分析を行った結果、新たな資料を発見、後述する研究発表ならびに学術論文を発表した。

【平成 27 年度】

平成 26 年度に引き続いて、決定した方法によって折口信夫旧蔵資料の整理、分析をおこなった。

庄司達也、松本博明は、受取書簡の内昭和 4 年から 8 年にかけての資料について外形的把握を完了、各情報要素(差出人、差出年月日、消印日付、その他)について整理を行った。そのうえで、基本データベースに情報を入れて枠組みを完成、その内容について改めて各資料の原資料との突き合せを行った。

城崎陽子は昭和初期に折口信夫が改訂を

試みた自著『口訳万葉集』の原稿（牛島軍平筆記）を通読し、その内容を精査分析、従前の認識との齟齬を確認した。

須藤宏明は、折口信夫と同時代に活躍した川端康成などの作家とのかかわりを精査した。

松本博明は、國學院大學折口博士記念古代研究所が所蔵する旧蔵資料の整理と複写を継続し、自筆原稿の整理をほぼ完了し、それらをデータベースとして構築した。また、折口信夫の年譜改定に大きく寄与する生活資料の整理を行い、当時の居住地周辺の調査を進めるとともに、折口家家計簿の分析を行い、生活面での情報を蓄積した。さらに、「国文学の発生」第4稿の数種の自筆原稿について、テキスト間の相違を分析し、その生成過程を明らかにした。さらに、旧蔵資料の中の「民俗学関係資料」の整理を進め、それらをデータベース化し、そこから明らかになる事実について発表した。

こうした成果については、平成27年7月18日、10月14日、12月9日、平成28年2月9日に研究会議を開催し、それぞれの成果を持ち寄って発表を行い共有した。

【平成28年度】

最終年度であることから、自筆原稿資料の解読を進め、その内容を翻刻しながら、その資料のレベルを特定、仕分けした。その情報をデータベースに入れ込み、データベースを完成させた。残念ながら全面公開には至っていないが、活用できる段階にある。

また、資料整理とデータベースの構築について確認を行うとともに、不完全部分の加補を行った。それぞれ個別資料の整理分析を継続し、その成果について研究発表、論文執筆を行った、（5．主な発表論文等参照）

また、近代文学資料研究の研究者を集めて、近代文学資料に関する勉強会を、八木書店を会場に開催。真銅正弘氏をコメンテーターとして、大木志門氏（山梨大学）が「徳田秋聲

と水上勉 二人の文学者資料のケースから」、佐藤秀明（近畿大学）氏が「資料は落ち着かない 三島由紀夫「会計日記」と題して発表を行った。当日20人を超える参加者が集まり、本科研費の成果とともに、従前の資料研究の成果も含めた活発な討論が交わされた。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計7件)

松本博明「分岐するテクスト—唱導論から大嘗祭論へ」、『文学・語学』第117号、招待、全国大学国語国文学会、2016年

松本博明「折口信夫と人文科学研究費」、『近代文学資料研究』第2号、査読有、掲載予定、2016年

松本博明「折口信夫自筆「初期目安ノート」が意味するもの」、『近代文学資料研究』第1号、査読有、pp.29~42、2015年

須藤宏明「名作は誤読を誘発し、第三項が誤認を正す」、『日文協国語教育』第43号、招待、pp.1-15、2016年

須藤宏明「片岡鉄兵『綱の上の少女』、川端康成『招魂祭一景』比較論」、『盛岡大学日本文学会誌』第27号、査読有、pp.1-16、2015年

須藤宏明「『文芸時代』合評会発言に見る川端康成の表現手法「葬式の名人」の大阪弁の問題をめぐって」、『近代文学資料研究』第1号、査読有、pp.51-67、2015年

庄司達也「東京成徳大学日本伝統文化学科蔵木呂子斗鬼次「林原耕三宛書簡」翻刻」、『東京成徳大学研究紀要 - 人文学部・応用心理学部』23号、pp.272-276、2016年

〔学会発表〕(計3件)

松本博明、「国文学の発生第4稿の生成論的分析-折口信夫旧蔵自筆原稿資料の整理結果概要とともに-」、全国大学国語国文学会、

2015年12月6日，國學院大學栃木短期大學
(栃木県)

松本博明「折口信夫旧蔵「民俗資料」について」日本民俗学会第68回年会，2015年10月12日，関西学院大学(兵庫県)

須藤宏明「名作は誤読を誘発し、第三項が誤認を正す」日本文学協会国語教育部会公開シンポジウム，2016年4月11日，拓殖大学(東京都)

〔図書〕(計3件)

松本博明『折口信夫の生成』，おうふう，総頁384頁，ISBN78-4-273-03741-3，2015年

庄司達也『倉敷市蔵 薄田泣菫宛書簡集 詩歌人篇』編者：倉敷市、共著者：浦西和彦、片山宏行、庄司達也、掛野剛史他3名、執筆pp203-209、他(注釈・解説)，2016年

庄司達也『倉敷市蔵 薄田泣菫宛書簡集 文化人篇』，八木書店，浦西和彦、片山宏行、庄司達也、掛野剛史他3名。pp84-98，2016年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本博明 (MATSUMOTO, Hiroaki)
(岩手県立大学盛岡短期大学部・教授)
研究者番号：20310146

(2) 研究分担者

須藤宏明 (SUDO, Hiroaki)
(盛岡大学文学部・教授)
研究者番号：60275584

庄司達也 (SYOJI, Tatsuya)
(横浜市立大学国際学部・教授)
研究者番号：60275998

城崎陽子 (SIROSAKI, Yoko)
(國學院大學文学部・講師)
研究者番号：20384000